

現代國民の飲酒と次代國民の體質

片 山 國 嘉

私は飲酒の害が如何に深く且つ大にして單に現在の個人のみならず、延て其子孫及國家社會に及ぼすかに想到し特に其専門とする法醫學の立場からして、其悲絶慘絶の實例に數々接觸しますから——現に今日も飲酒のため一朝生面の猛獸と化し、多年の知己に殺されし被害者を解剖しました——一層痛切に此感を深くし機會を得る毎に此害を絶叫し、世間無明の醉夢を覺醒せんと欲して居ります、從て今日此演壇に立ち、此話をなすのを非常に愉快に感じます。即ち私はかの所謂大乘的、即ち自他平等盡未來際の利益のために此話を致すのであります、然るに廣き世間には或は私を目して、自己が酒を飲み得ぬため好事的に此舉に出づとするものがありませうが、是は當らぬのであります、何となれば、私は明治十年西南役終り凱旋の際、虎列拉疫猖獗を逞ふせしに當り右患者取扱中豫防上飲酒を可とすとの謬説に迷はされ約一ヶ月間、毎日三度の食事に酒を用ひ其量約一升到達せし程、斯道にかけ前途有望の資質を表したが、此説の誤謬なるを知るに及んで斷然禁酒今日に到つたからです、要するに私は、酒を飲む能はざるに非らず自ら其害を知りて飲まぬのでありまして、決して自己が飲めぬから人に勸むるに、禁酒を以てするのではない。即ち此間一點の私心がないのである。次にまた私を指して或る特殊の宗教の別働隊にして、絶對的偏狹の

禁酒論者となす人もあらんかなれども、私は決して高遠幽玄の宗義や捕風捉影の空理を談するものにあらずして、的切明瞭何人も質見首肯し得可き科學的見地に據り如何なる雄辯よりも雄辯なる正確の事實即ち諸君の御手許に差上げた別紙統計表——我國では未だ之に關するよき統計なき故歐洲材料中最良のものを採つた——等に立脚し、しかも幼年少年の飲酒は絶対に禁ずるも、壯年老年の人士に向ては其自覺克己に訴へ漸を以て禁酒の實效を擧げんと欲する者であります。

酒の害を説くに先だち私は其利を過信する、「酒者百藥之長也」とか或は「酒は憂の玉筥」とか或は「冠婚喪祭須酒而作禮」とかいふ諸語の謬妄を破しませう。

世に酒は防寒の效ありと信じ今日の如き嚴冬の寒夜に、強て多飲するものあるは迷へるの甚しきものである。成る程飲んだ當座は其刺激興奮力により一時溫暖を感ずるも、其醒め際は非常の寒さを感じしがも飲酒に伴ひ易き睡眠中最も劇しく、甚しきに至ては精神恍惚として凍死することもある。寒國には大酒後雪中を歩行するは大禁物にして、軍隊に於ても亦雪中の行軍若く歩哨に立つに大酒は非常に害ありて、動もすれば凍傷凍死を招き易いことは諸君御承知の御事ならむと存じます。

又酒の健胃強壯の效を過信するものがあります、然れども多くは其害却て利の上に出づるものであります、例へば其酒が「メチールアルコール」や「アニリン」染料によりて着色せられ「サツカリン」により加味せられたる「アルコール」や若くは「ザルチルサン酸曹達」の如き防腐劑にても其過剰を含有する如き

場合には其有害なるは言ふまでもなき事にして、又よし其酒が醇良なるにしろ胃腸の粘膜を害し——卵の白味を火酒若くは酒精に混入すれば、透明のもの忽ち變じて白色となる、又唇を火酒若くは酒精に觸れしむれば、其局部の蛋白質犯され凝固して白色を呈す、以て他を察すべきである——畢竟消化を助けずして却て之を遅くするに終り、其一時胃腸の運動を刺激し活潑ならしむる少利——山椒、薑、若くは唐辛子を用る方却て可である——と相殺して却て害を殘す場合多いのであります。

又新聞廣告等を過信し肺病患者等が酒を飲み、一時顔色の紅色を帯び精神の爽快なるを覺ゆるに隨喜する者なきにあらざるも、其實前陳の理由により結局却て營養不良を來たすに至るのです。

然かし腦貧血のため卒倒等の場合には薬用として酒を飲ましむる必要あり、又輕度の興奮劑として其效なきにあらざるも、百藥の長とか人生必須の物とか稱するに足らざるは、禽獸蟲魚は酒を飲まざるも健全に各々生活し往くを參照すべきである。

又之を飲めば一時憂悶を散し精神を爽快するは、畢竟其興奮性麻醉性あるためで、人のみならず獸類も酒を飲めばひよろ／＼します、而して其長所は即ち其短所之を過せば、自制力を失ひ愉快變じて憤怒悲哀等となり、動もすれば暴行や重大の犯罪をなすに至る、非常識の行動をなすが如きは固より言ふに及ばぬことである。是れ猶ほ印度人が鴉片として食し、支那人が烟となして喫し、歐洲人が「モルヒネ」として注射するものが神經痛を鎮靜し、精神を愉快なる華胥國裏に誘引するの效ありながら、其極人を毒するから

醫學上藥物學上毒物毒藥として扱はるゝと類を同うするのであります。

又今日では所謂「冠婚喪祭」特に祭禮や祝事には酒は無くしてはならぬ必須物のやうに考へられ居りますが、是は畢竟風俗慣習が然らしめたに過ぎませんので、衛生上及風紀上酒はよろしくないと悟れば、斷然之を廢止し若くは他の物に代ゆることが出來ます。亞米利加合衆國の大統領ウイルソン氏が大英斷を以て、宴會の時に酒の代りに曹達水を用ひし如きは即ちそれである。——我が貴族院に於て先きにシャムパン酒の代りに日本酒を以てしたは單に正貨流出を防がん爲に過ぎざるも——又其他の儀式に於ても從來會て有らざりし洋服等を採用して怪まざるに至れるより推せば、獨り酒のみ斷然廢止若くは他物を代用すべからざる理由なきは勿論である、其成否の分るゝ所は一に國民が酒害を自覺すると勇猛精神の實行力を有するや否に在るのであります。

古來酒の害は昭々たるもので既に三千年前に飲酒は佛教禁戒の一となつて居る、其常習的と機會的との間はす飲酒毎に個人の身心を毒し、犯罪を多からしめ延て其害を子孫竝に國家社會に及ぼす恐るべきものであります、是等は御手許に差上げた諸表に項を分ちて明記しあるから此には略説に止めます、詳は表を御覽下さい。

「酒と煙草は養生に害あり」とは三尺の童子も口にする所、飲酒の衛生上の害は諸般の病を通じ特に消化器病に多く、呼吸器病之に次ぎ神經病亦少からず。加之飲酒家は未だ酒の中毒を覺えざる程の人と雖ども

病氣に抵抗力少くなり従て容易に之に罹り、又、罹れば普通人に比して早く重體に陥り、又頓死する場合も少からず、腦溢血患者の飲酒家に多きも此一例である、又其害未だ病氣として目前に顯出する程度に至らざるものと雖ども、必ず身體に隱微の間に缺陷を生せしめ居るは職工の工場に於ける身體過失傷害が飲酒の翌日特に多きを見れば思半に過ぎませう、兵士の射的の如き微妙なる動作も勿論かゝる影響を受くべき筈でありまして、八代海軍中將の如きは特に此點に注意せられ、平素成績良き水兵も飲酒の翌日は不成績なるを看破了せられた。是は酒精が痲痺性を有して神經系統の作用を遲鈍ならしむるからである。又犯罪行為も飲酒日に特に多きは此理により克己自制の精神力弛緩するためであります。諺に「犯罪の裏面には酒と女あり」とある如く飲酒は犯罪全部の動機にあらざらんも、少くとも與て大に力あることは疑ふべからざるの事實であります。

然れども是等の害は飲酒家本人に止まれば猶可なり、されど私は一步を進めて其子孫に及ぼす害の深くして且つ大なるに、想到すれば實に戰慄に堪えぬのであります、是れ私の老の將さに致らんとするを忘れ栖々七十餘君否な機會さいあらば、幾百個所にても飲酒の害を説きてやまないと決心した理由です、即ち酒精の害は他の諸機關のみならず、生殖細胞にまで及ぼし卵巢の卵、辜丸の精虫の蛋白質まで害するに至るを以て、之より生成せる子は不完全の種の生長なれば従て身心に不完全のもの多く、身體の不具者や生兒死亡率の高きは勿論、よしや生長しても癡癩白痴や若くは身心の虛弱者少からずして、犯罪者となるも

亦頗る多く累を次代國民に及ぼすこと僅少ならぬことであります、特に其害の遠く飲酒家の娘の授乳能力にまで達するに至ては眞に驚心駭魄の至であります。

然るに世間の惡習慣は往々却て反對に飲酒を強ゆることがあります。即ち我國に於ても料理店に登り飲酒せざる客は好遇せられざるが西洋には一層甚しき惡風ありて、上等葡萄酒罇の口を明るるに非らざれば上等食卓に就くを許ざる所あり、されば新婚旅行は一生の快事として成るべく華美奢侈に振舞ふ故に、上等食卓に就かため好まざる葡萄酒を飲み且つ中流以下の徒は、高價の酒を後に遺すを吝み無理に多飲する故、新婚旅行中に妊娠した子に虛弱者、不具者、低能兒、白痴者、犯罪者が多い、之と同理にて即ち多く酒を飲む耶蘇クリスマス誕生祭、舞踏盛なる月及び秋季葡萄酒收穫時等に娠める子供も亦然るのを見れば、飲酒の害が如何に子孫を累すかが益々よく分明する。

其外社會的の酒害國家的の酒害に至ては時間に乏しきを以て此に陳べませんが、表につきて如何に其多大なるかを御考察下されんことを望みます。

かゝる有害の酒が世を毒せしや由來實に久しと謂ふべく、次に現代國民の飲酒量は如何といふに、是亦驚くべき巨額に達し居るを見るのである、即ち我日本の如き貧國にして猶一年凡三億圓を拂ふといはれ、獨逸の如きは遙かに多くして三十二億マルク即ち凡我十五億圓、英米佛諸國も亦略ぼ之に類すといへば、全世界毎年酒の消費額は幾百億圓を算すべく、即ち有史以來最大の今回世界的大戰争の巨額の戦費とて世人

の耳目を驚動しつゝあるものと略ぼ匹敵すべきものが、毎年暗黙の裏に酒のために費されて居るのである。されば其の影響の非常に大なるべきは論を待たぬことで、若し我々時代の國民が之をかゝる有害の飲酒に棄てずして有益の事業に投じなば、現時竝に將來に於ける功德無量不可思議であらふ、一舉兩得世人何ぞ奮勵一番せざるや。

我々日本民族の永續を時計の鎖に譬ふれば我々は其一節、祖先は前節子孫は後節にして整然たる因果律之を一貫して居るのであります。——勿論他民族に於ても亦同様ですけれども——はかなき個人の點滴は勿論滔々たる民族の巨流と雖ども幾萬年も盡きずとは申されませんが、優勝劣敗適者生存の理により既に絶滅し、若くは今や絶滅せんとして居る民族は少くありません。然るに我々は萬世一系の 聖天子を戴き周雖舊邦命維新の盛運を荷ひて新進の勢當る可からざるの風あるは、我々祖宗の努力其大源因をなし居るためなるは言ふ迄もなきことなれば、我々は更に進みて此人種的民種の競争最も激烈にしてしかも一我日本國民を除き、他は白人の跋扈にまかせある現代に於て最も次代國民に資する善良有力の素因を遺さるべからず。——少くとも之に累を及ぼす事をすべからず——而して益以て我國民の素質を善良にし、平時には文化を進め戦時には多數の壯丁を出し、天壤無窮の皇運を扶翼せざるべからず、是れ實に上 祖宗に對し下子孫に對する我々の義務であります、然らば前陳禁酒の如き最も速かに實行せざるべからざるものです、人或は其成功を危ま人も私は表に示したる如く、人智未だ今日の如く普及せざる西曆千八百三十

年瑞典國が着手せし禁酒主義が、千九百年までに既に多大の功果を擧げしに鑑み、今日の我國の如く教育駸々として進み居る際單に法令の力を藉るのみでなく、飲酒の害を適切に説明して成年以上の人士の自覺心に訴へ、他方には斷乎として未成年者の飲酒を禁止せば、漸を以て之を絶滅し得べきを堅く信じて疑はぬのであります。人種優良學は既に世人の注意を惹き既に亞米利加合衆國の或州にては、特種の罪人には子孫が出来ぬやうの體罰を課して居る。

明治大帝は宣り給へり、舊來の陋習を破れど、又此 大帝の下に我々國民は既に清露二大國を敗り更に今上天皇の命を受けて獨逸の強邦に勝てり、古人は河北の賊を破るは易く心中の賊を破るは難しといへしも、斷じて行へば鬼神も之を避く、我連戰連勝の新興國民にして直に飲酒の害を自覺しなば、口腹一朝の慾のために國家百年の大計を誤るも願みずといふ如き不心得千萬の者はあるまじく、又あらしむべからざるものである。されば明治の世に芽を出せし禁酒運動が、大正の世に好果を結び得ば是亦、明治先帝の御聖徳記念の一端ともなるべしと思ひて、斯會に來たり斯説を申上げたのであります(完)

× × × × × × × × × ×

社會的酒害

- 一・社會的身體ノ不健全
- 二・社會的精神ノ不健全
- 三・生產能力ノ不健全
- 四・家事經濟ノ不健全
- 五・家庭ノ不健全
- 六・社交ノ不健全
- 七・社會的公德心ノ不健全
- 八・風俗ノ敗類
- 九・犯罪ノ增加
- 十・貧困者ノ增加

個人的酒害

國家的酒害

- 一・國家的身體ノ不健全
- 二・國家的精神ノ不健全
- 三・國家的生產力ノ不健全
- 四・國家的公德心ノ不健全
- 五・國家的經濟力ノ不健全
- 六・國家的守護力ノ不健全
- 七・國力發展ノ不健全

直接

急性中毒

- 一・精神上ノ現象 (微醉・大醉・病醉)
- 二・身體上ノ現象
- 三・胚種上ノ現象

慢性中毒

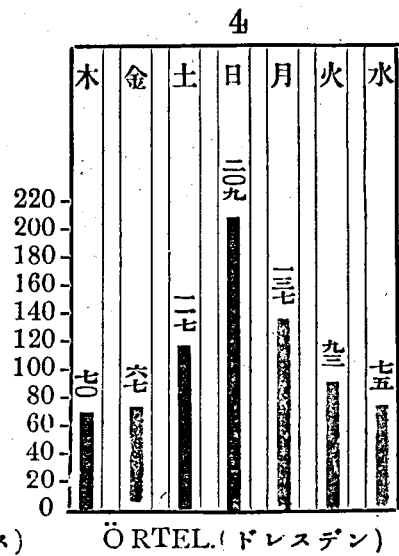
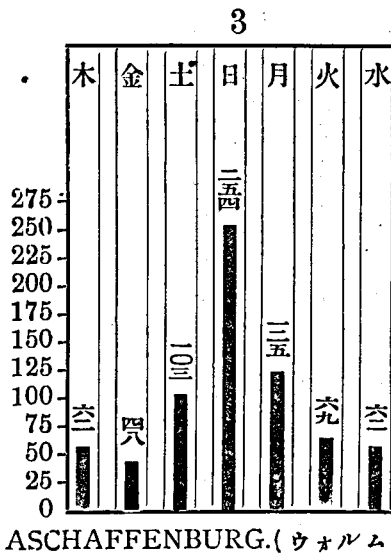
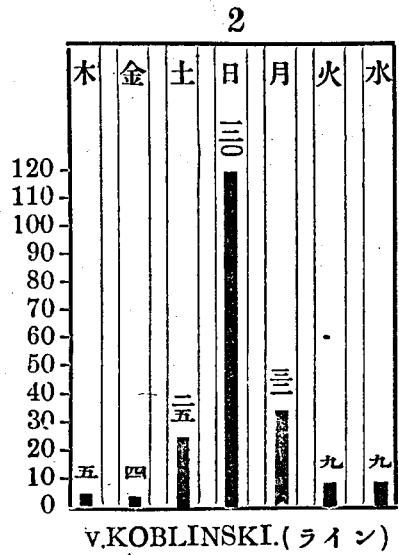
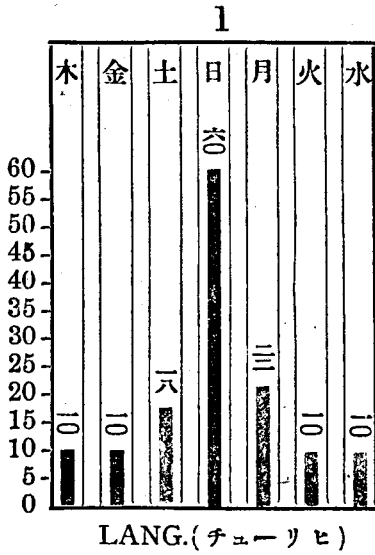
- 一・精神上ノ現象 (酒客氣質・精神病)
- 二・身體上ノ現象
- 三・胚種上ノ現象

間接

- 一・多病・多死
- 二・子孫ノ變質・多死

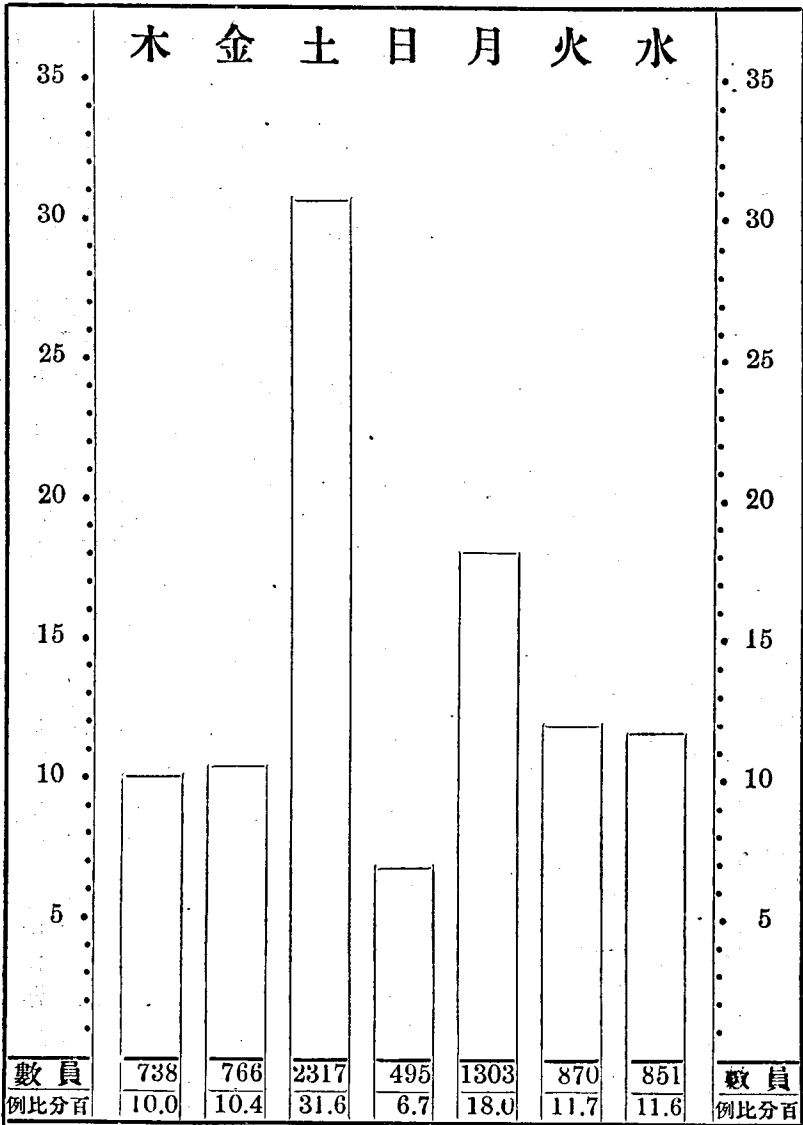
飲酒と身體傷害日

現代國民の飲酒と次代國民の體質



飲酒後拘留事件數ト七曜日

現代國民の飲酒と次代國民の體質



103

總數 . 7340_人

LIVERPOOL.

1903 調査

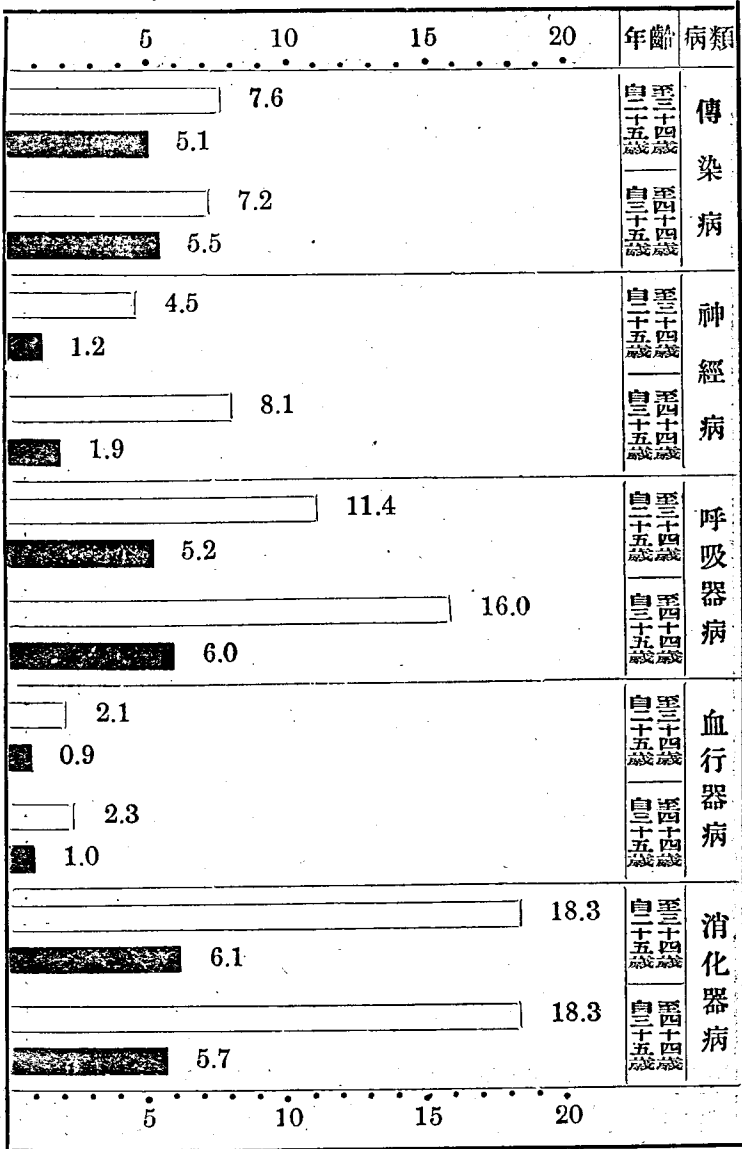
飲酒と疾病

患者百人中

飲酒家



普通人



現代國民の飲酒と次代國民の體質

ライプチヒ市及附近地方疾病金庫及死亡比例ニ依ル1910.伯林帝國統計局調査

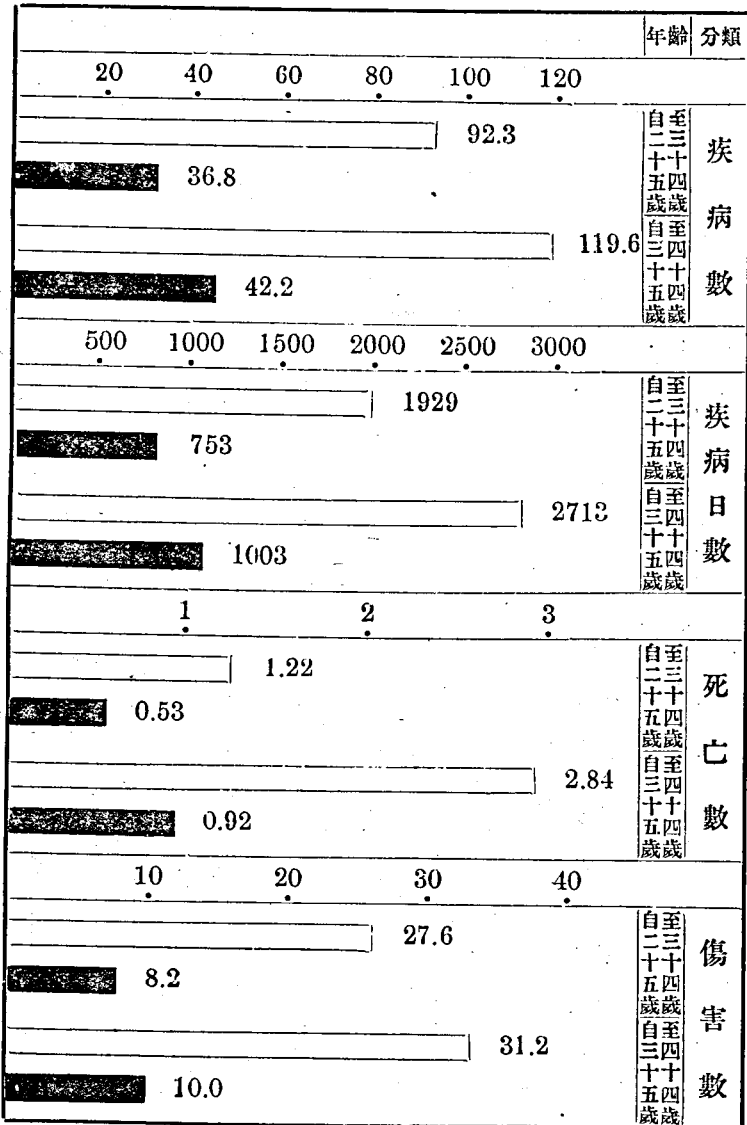
酒と疾病、死亡及傷害

被保人百人中

現代國民の飲酒と次代國民の體質

飲酒家

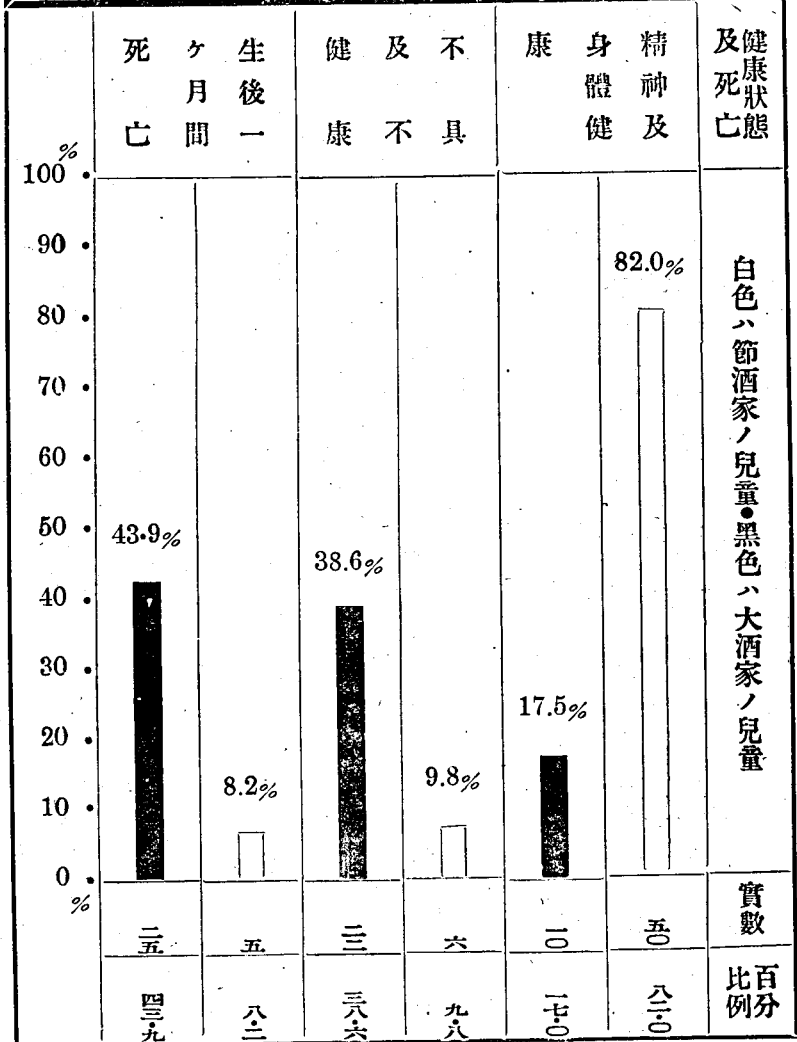
普通人



ライプチヒ及附近地方疾病金庫調査

節酒家十家族 (兒數六一) 及 大酒家十家族 (兒數五七) 兒童死亡及健康狀態比較

【デムメ氏調査】



親ノ 飲酒 ニ原 因ス ル子 孫ノ 變質

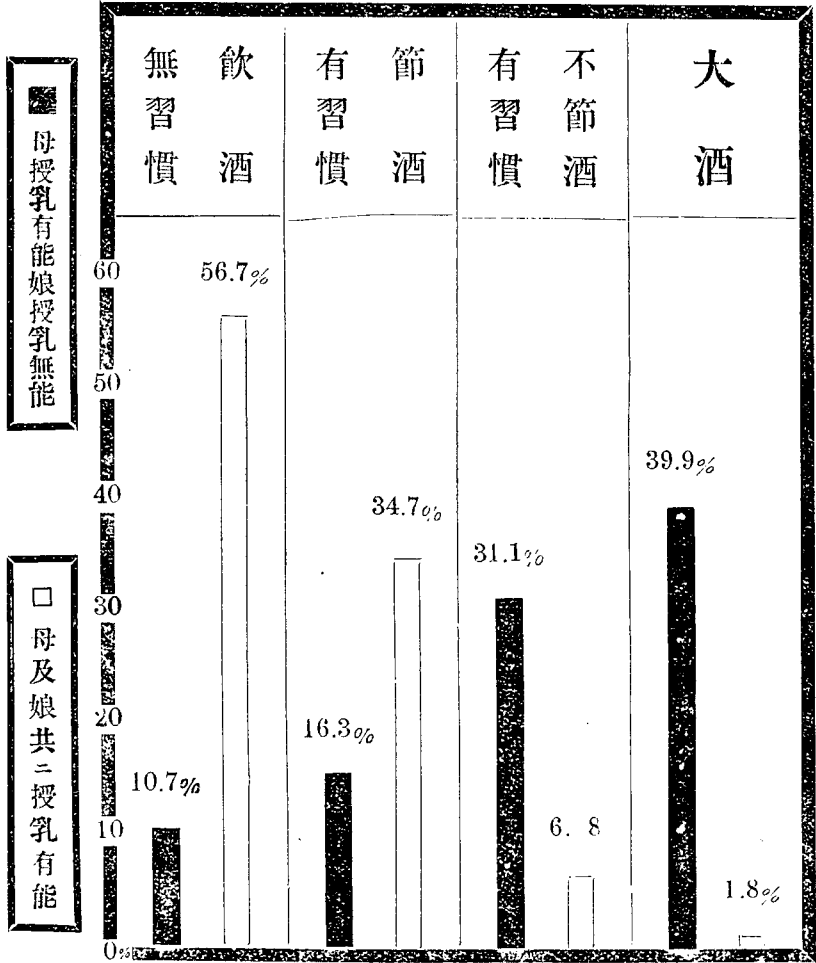
身體變質

精神變質

- | | | | | |
|---------|---------|--------|-------------|----------|
| 一. 精神薄弱 | 二. 痴愚白痴 | 三. 神經病 | 四. 精神病 | 五. 精神變質者 |
| 一. 身體虛弱 | 二. 結核 | 三. 齲齒 | 四. 其他ノ罹病性增多 | 五. 乳ノ缺乏 |

父ノ飲酒ト娘ノ授乳能力

現代國民の飲酒と次代國民の體質

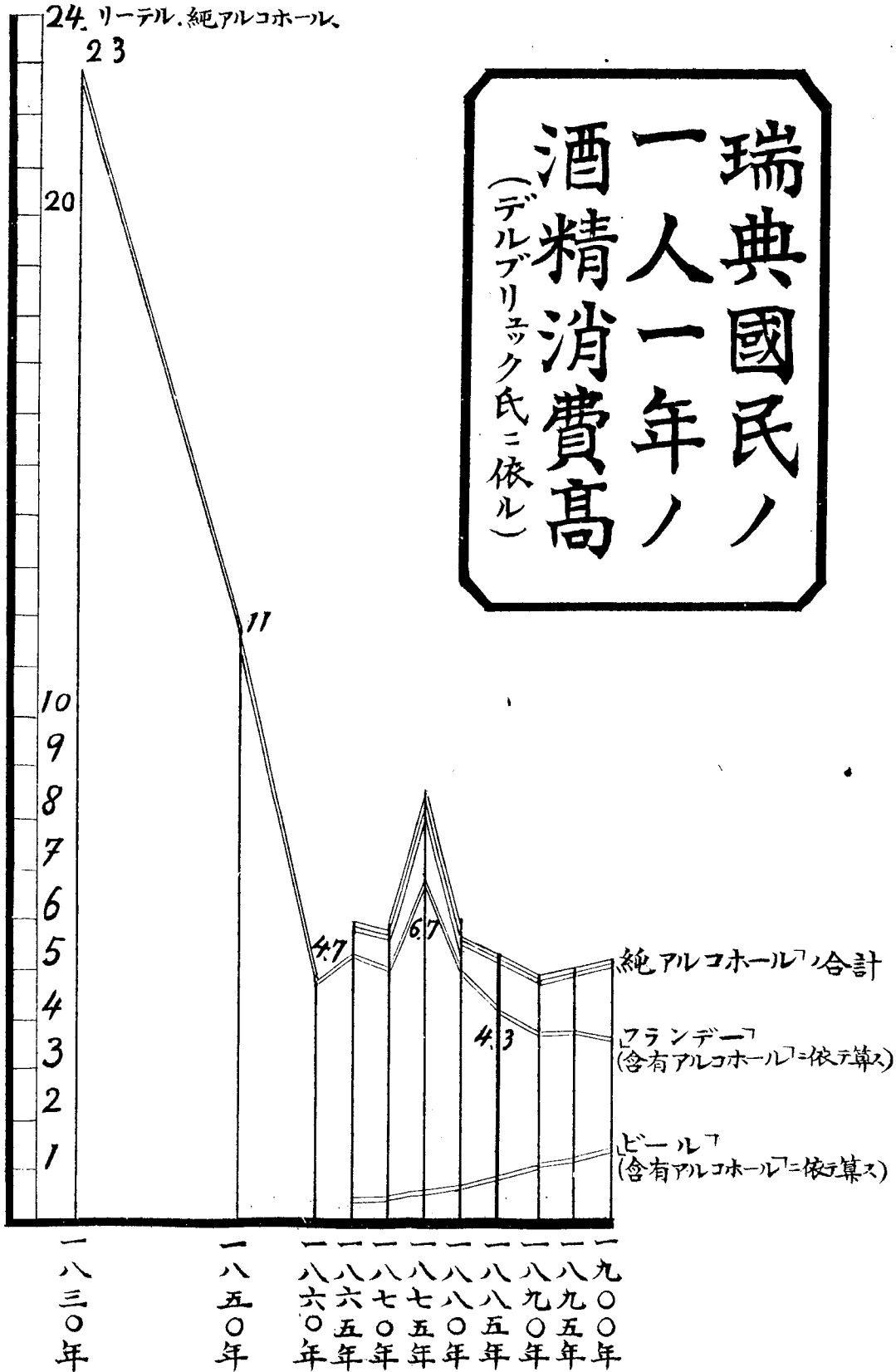


■ 母及娘共ニ授乳無能

□ 母及娘共ニ授乳有能

調査醫師二百五十八人 被調査人員二千五百餘人

24 リーテル、純アルコール。



瑞典國民ノ
一人一年ノ
酒精消費高
(デルブリック氏ニ依ル)